

令和7年5月21日

石巻市議会議長 遠藤宏昭 殿

会派名 無会派
代表者名 佐藤雄一

研究研修会等参加報告書

研究研修会参加の結果について、次のとおり報告します。

記

- 1 研究研修会名 令和7年 北海道ブロック5月研修会@道北
(1) 研修①『地方政治に求められているもの』
講師：士別市長 渡辺英次 様
(2) 研修②『北海道における農業の課題と支援について』
講師：ホクレン旭川支部 営農支援室長 兼 次長 岡 智輝 様
(3) 研修③『合宿の里士別における取り組みについて』
講師：士別市教育委員会生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課
- 2 期 間 (1) 令和7年5月13日(火) 午後3時～午後4時30分
(2) 令和7年5月14日(水) 午前9時～午前10時00分
(3) 令和7年5月14日(水) 午前10時10分～午前11時40分
- 3 場 所 士別市役所 3階 士別市議会 委員会室
(北海道士別市東6条4丁目1番地)
- 4 参加者氏名 佐藤雄一
- 5 参加目的 財政健全化実行計画を実行中に士別市長に就任された渡辺市長。
人口1万6千人弱の小規模都市として、就任前から積み上げられてきた政策や行財政からどのような転換を図ったか、政治的なお話を伺うため参加を希望した。また、研修2日目にはホクレンの重点方針・現地課題をふまえた営農支援の取り組みということで、ホクレンはJAグループ北海道において経済事業を担っている組織であるが、全国の消費者に北海道産の農産物や畜産物を供給する販売事業と生

産者の営農活動を支える購買事業、営農支援を行っている。今回は特に営農支援についてお話を伺うため、研修参加を希望した。研修③では『合宿の里士別における取り組みについて』士別市のまちづくりの柱のひとつとして取り組んできた合宿の里の経緯や経過、その効果を伺うため参加を希望した。本市でも陸上競技場の建設が計画されているが、ただの箱物にならないよう、施設を利用して合宿の里として成功している士別市の事業について理解を深め、本市の今後の施策の参考としたいことから、本研修を受講する。

6 研究研修会の概要

全国若手議員の会・北海道ブロック（北海道若手議員の会）主催の研修会で、2日間開催された。一日目は現地の市長による政治的な話、2日目は農業の課題と支援についての内容を事業者からと、士別市のまちづくりの柱のひとつであるという合宿の里について、担当課よりお話を伺った。

（1）研修①『地方政治に求められているもの』

講師：士別市長 渡辺英次 様

市長お手製のパワーポイントをスクリーンに映しながらお話いただいた。内容は「前菜」「副菜」「主菜」「デザート」の項目に分けられ、「前菜」として、ようこそ士別市へ。渡辺市長の半世紀。〇〇になろうと思ったきっかけ。士別市の紹介

「副菜」では、地方の課題と対策。地方における課題。士別市の人口推計。対処療法・原因療法。

「主菜」では、国の財政を知らずして政策を語るな。ふるさと納税の光と影。貨幣発行のいろは。国債は借金か否か。

「デザート」として、地方の在り方。これからの地方自治体は。政治も変わりつつあるが。など、積極財政論をふまえたこれからの地方政治の在り方、また、ワクチンや国の政策に対する思いなどのお話があった。

（2）研修②『北海道における農業の課題と支援について』

講師：ホクレン旭川支部 営農支援室長 兼 次長 岡 智輝 様

研修2日目にはホクレンの活動についてお話を伺った。ホクレン長期ビジョンとして、2019年にホクレンは創立100周年を迎え、経営理念に掲げた、生産者のための共同組合として「農」と「食」の未来を担う組織であると再確認し、次の100年に向け、培ってきた強みやグループ会社の機能を今後も活かしながら、経営理念・存在意

義に立脚した長期的なビジョンを組み立てることとし、2030年を目途に北海道農業・ホクレングループの目指す姿を「VISION 2030」として描いていると伺った。

「VISION 2030」7つの重点方策への取り組み内容は、

- 1、総合力の発揮による地域課題の解決
- 2、消費者ニーズと産地の強みをつなぐバリューチェーンの構築
- 3、持続可能な物流体制の構築
- 4、新技術やスマート農業の推進等による生産力の向上
- 5、労働力不足への対応と人事育成支援
- 6、みどりの食糧システム戦略への対応やSDGsへの取り組みを通じた環境負荷軽減と農業所得向上の両立
- 7、地域社会の維持に向けた取組強化

として、

- 1「総合力の発揮による地域課題の解決」では、マーケットインと産地省力化を両立させる加工業務用野菜の生産振興と粗原集荷の拡大、暑熱対策、新規需要作物の作付け拡大
- 2「消費者ニーズと産地の強みをつなぐバリューチェーンの構築」では、馬鈴しょにおける加工業務用やポテトチップ用品種の安定供給、北海道産農畜産物の輸出の取り組み
- 3「持続可能な物流体制の構築」では、一貫パレジゼーション輸出の普及・拡大によるドライバーの負担軽減、中継地点の設置による持続可能な輸送体制の整備
- 4「新技術やスマート農業の推進等による生産力の向上」では、ホクレンGISの本格運用開始、コネクテッドファームの取り組み
- 5「労働力不足への対応と人事育成支援」では、水稻品種「えみまる」の普及・拡大による省力化の推進、労働力不足への対応、人事育成支援
- 6「みどりの食糧システム戦略への対応やSDGsへの取り組みを通じた環境負荷軽減と農業所得向上の両立」では、コスト低減・省力化につながる「えこラク」シリーズの普及拡大と、国内資源を活用した「あぐりサイクル」「みどりサイクル」の取り扱い開始、子実とうもろこしの生産・販売・流通体制の整備
- 7「地域社会の維持に向けた取組強化」では、JA個別宅配「ジョイライフ」ネット版での取り組み強化、循環型農業の実現に向けてお話を伺った。

また、現地課題解決に向けた取り組みでは、上川地区農協青年部協議会と連携した現地試験の実施で生産性向上、省力化。スマート農業で

はホクレンRTKシステム、ホクレンGISの説明を伺った。

ホクレンRTKシステムは、人工衛星からの信号をトラクター側とJAなどに設置されたRTK基地局が受信、補正情報としてインターネット回線でホクレン管理のクラウドサーバーに送信、クラウドサーバーで受信した補正情報はインターネット回線を通じて生産者のスマートフォンに配信。トラクター側でも、位置補正情報を利用した高度な自動操舵で高精度な作業が可能となるとの説明を受けた。また、ホクレンGISは、Geographic Information Systemの頭文字をとり、地理情報システムのことで、農業分野では圃場の位置と形状、生産者、作付け作物が現地実態にあった状態で整備されている「圃場図」が重要であり、年度ごとに地図上で管理。見える化すると伺った。圃場作業支援機能の活用事例として、秋まき小麦収穫作業の実例、春まき小麦圃場調査の実例などを見せていただいた。

(3) 研修③『合宿の里士別における取り組みについて』

講師：士別市教育委員会生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課
合宿の里士別の歩みと未来についてお話を伺った。合宿の里士別のはじまり、現在の士別市は平成17年に旧士別市と旧朝日町が合併して誕生した。両地域では合併以前から自然環境や競技施設を活かしてスポーツ合宿の受け入れが積極的に行われていた。1961年に整備された朝日三望台シャンツェを活用し、高校生によるスキージャンプ合宿が始まり、これが士別地域における合宿の起点となった。1977年、士別市とゆかりの方の紹介をきっかけに順天堂大学陸上競技部が夏季合宿を実施。以降、士別市は長距離競技を中心とした合宿地としての評価を高めていった。合宿に訪れたチームが好成績を挙げはじめると「士別合宿」は指導者や選手の間で評判となり、実業団や大学チームの合宿が広まった。受け入れ態勢の整備とともに、士別はスポーツ合宿地としての認知を大きく高めていった。また、合宿と大会を連動させたトレーニング環境づくりも進められ、競技力向上を図る取り組みが展開された。スキージャンプ大会やハーフマラソン大会などが開催され、マラソンの高橋尚子選手やスキージャンプの高梨沙羅選手など、世界で活躍するトップ選手たちが士別でトレーニングを重ねていると説明を受けた。

士別市は北海道北部の内陸に位置し、夏季の涼しさと冬季の豊富な積雪という特徴がある。夏は長距離走や持久走系のトレーニングに最適な環境が整い、冬はスキージャンプやクロスカン トリーなどの

ウインタースポーツに適した条件が整っている。市内には2つの体育館はじめ、屋内施設も備えており、季節を問わず幅広い競技の合宿に対応できる体制が整っている。また、地域ごとに特徴的な競技分野を持ち、陸上、スキー、球技、ウエイトリフティングなど、様々な競技に対応可能で、宿泊施設と練習施設が近接して配置されているので選手にとっても移動の負担が少なく、効率的な合宿が実現できると伺った。

士別市の合宿受け入れ実績は、年によって多少の変動はあるものの、近年は年間およそ2万人前後で推移している。合宿は士別市の地域振興にも重要な役割を果たしていて、市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも、その3本柱のひとつとして「合宿の聖地創造」を掲げており、地域全体が連携して合宿の受け入れと活用を進めている。平成28年度に実施した市の調査によると、スポーツ合宿による地域経済への波及効果は、年間約2億8,700万円と推計される。市ではスポーツ合宿の機会を活かし、子どもたちとアスリートの交流を通じたスポーツ教育の充実に取り組んでいる。子供たちにとって、アスリートとのふれあいは、スポーツの楽しさを知るだけでなく、夢や目標を描くきっかけにもなっているとお話を伺った。夏季合宿中の実業団チームの協力を得て、市内の全小学校を対象に出前形式の陸上教室を開催している他、市内の中学2年生を対象に、オリンピックを講師に招き「オリンピック教室」を開催している。こういったきっかけで実際に士別市から陸上競技の小椋裕介選手やウエイトリフティングの瀬川瑠奈選手など、トップアスリートが育っている。2025年に実施した市民アンケートでは、合宿政策に対する期待が高く、今後も継続・発展させるべきとの意見が大半を占める。一方で、どこのチームの誰が来ているのかわからないといった情報発信の不足や、施設の老朽化、宿泊施設の後継者不足による宿泊キャパの維持、秋ごろの種目不足による閑散期など、今後の課題も出てきているといったお話を伺った。

7 参加経費 46,490円